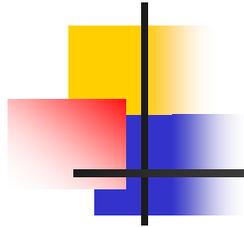


核融合研究作業部会(第2回)における「ITER計画及びBA計画の実施体制」の主な論点

- 若手研究者にとって、ITER計画やBA計画への参画がキャリアパスとして位置付けられることが非常に重要ではないか。
- 原子力機構はITER計画に関して当事者であり、大学は協力する立場で必ずしも当事者ではない。原子力機構としての仕事はある程度決まっており、大学がいかに連携していくかということが、議論の中心となるのではないか。
- ITER計画、BA計画の活動については、原子力機構がメインプレーヤーということではなく、オールジャパンとして推進していくことが重要ではないか。
- オールジャパンでITER計画、BA計画に連携していくことは前提であるが、大学と原子力機構の構造や文化の違いを踏まえ、円滑に進めるための方策を議論し、スタート時点から両者の摩擦を少なくするべきではないか。
- 大学側としては10年、20年にわたる長期プロジェクトに対して評価されるため、人材の派遣に見合うような実績を残していかなければならない。6年間の中期計画を策定して活動していく中で、大学としてITER計画、BA計画に参加しやすい制度の整備を提案できればよいのではないか。



- ・ 核融合フォーラムはITER計画のサポートグループであり、名称をITERフォーラムとすればもっとその役割が明確になったのではないか。
- ・ 核融合フォーラム、核融合ネットワークはそれぞれオーバーラップする部分がある。目的も違い、時間によって変化しつつあるため、あまり区別しない方がよいのではないか。
- ・ 核融合フォーラムはかなり大きな組織であり、例えば、評価機能を含む場合は原子力機構の職員は入らない、核融合フォーラムの中にITERフォーラムの部分をつくるなどの工夫が必要ではないか。
- ・ ITER計画のようなトップダウン型のプロジェクトに対応するためには、核融合フォーラムの中に機動性、即効性のある組織としての委員会を設置することが必要ではないか。
- ・ 地元(青森県、茨城県)からの様々な意見を実施機関が聞くことになると思うが、核融合フォーラムの中にも地元の代表者に入って頂く必要があるのではないか。
- ・ 核融合フォーラムの役割として、ITER計画、BA計画に対するオールジャパンからの意見を出せる場とすることが非常に重要ではないか。